

平成 28 年度 委託研究開発成果報告書

I. 基本情報

- 事業名： (日本語) 障害者対策総合研究開発事業  
(英語) Research and Development Grants for Comprehensive Research for Persons with Disabilities
- 研究開発課題名： (日本語) 発達障害者の特性をふまえた精神科ショートケア・プログラムの開発と臨床応用（修学・就労支援）に関する研究  
(英語) Development of psychiatric rehabilitation program for adults with autism spectrum disorders (ASD) and its clinical application for those who are in University and in a stage of job-seeking
- 研究開発担当者 (日本語) 学校法人昭和大学 昭和大学発達障害医療研究所 所長 加藤進昌  
所属 役職 氏名： (英語) Medical Institute of Developmental Disabilities Research, Showa University, Director, Nobumasa Kato
- 実施期間： 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日

- 分担研究 (日本語) 成人発達障害者に対する精神科ショートケア・プログラムの開発と標準化に関する研究
- 開発課題名: (英語) Development of psychiatric rehabilitation program for adults with autism spectrum disorders (ASD) and its standardization
- 研究開発分担者 (日本語) 学校法人昭和大学 昭和大学発達障害医療研究所 所長 加藤進昌
- 所属 役職 氏名: (英語) Medical Institute of Developmental Disabilities Research, Showa University, Director, Nobumasa Kato
- 
- 分担研究 (日本語) 発達障害のある大学生の実態調査(継続)と標準ショートケア・プログラムへの参加誘導
- 開発課題名: (英語) Survey of college students with neurodevelopmental disorder and effects of introduction to new day care rehabilitation program
- 研究開発分担者 (日本語) 東京大学 学生相談ネットワーク本部 准教授 渡辺 慶一郎
- 所属 役職 氏名: (英語) Division for counseling and support, the University of Tokyo, Associate Professor, Kei-ichiro Watanabe
- 
- 分担研究 (日本語) 早稲田大学での症例収集・紹介
- 開発課題名: (英語) Case collection and referral in Waseda University
- 研究開発分担者 (日本語) 早稲田大学 理工学術院 教授 井上 真郷
- 所属 役職 氏名: (英語) Faculty of Science and Engineering, Waseda University, Professor, Masato Inoue
- 
- 分担研究 (日本語) 発達障害学生の修学・就労支援ショート・ケアプログラムの開発に関する研究
- 開発課題名: (英語) The research of developing a new program supporting school life and job application for students with autism spectrum disorder
- 研究開発分担者 (日本語) 公益財団法人神経研究所 発達障害研究センター 研究員 上瀬大樹
- 所属 役職 氏名: (英語) Department of Developmental Disorder Research, Neuropsychiatric Research Institute, Fellow Researcher, Taiki Jose

## II. 成果の概要（総括研究報告）

（昭和大学）

平成 28 年度現在までの本研究における参加機関は 10 機関となり、協力を表明した機関も加えると合計 23 機関になった。医療、福祉、産業の各領域において関心が高まっており、支援者による成人発達障害者向けショートケア・プログラムの見学者は累計 600 人を超えた。23 機関における発達障害者のデイケア利用者数は 1654 人、内専門プログラムへの参加者累計は 625 人に達している。

7 月 8 日、9 日の 2 日間にわたり行われた第 2 回検討会議では、各機関より実施状況の報告、現状報告、対象者の特性や地域性についての意見交換がなされ、さらなる連携の強化が図られた。11 月 19 日に開催した第 4 回発達障害者支援研究会では検討会議で把握した進行状況を発表し、個別の研究協力機関での成果を共有した。

専門プログラムはマニュアル、ワークブックとして平成 29 年 4 月に星和書店より刊行された。

平成 29 年 10 月 14 日、15 日に海外の著名な研究者を招いて国際シンポジウムと第 5 回発達障害者支援研究会を開催予定である。現時点では世界最大の自閉症当事者団体である Autism Speaks の副理事長である Andy Shih 博士他 4 名の海外研究者の招聘が決定している。最終的にマイルストーンである 300 人のプログラム参加者は達成できる見込みであり、これに加えて、同じ発達障害の仲間である ADHD 者向けにアレンジしたプログラムも試行して効果の検証をスタートさせる。

（東京大学）

ニーズ調査で得られた結果の一部を全国保健管理研究集会で発表した。また、利用が適切と考えられた学生にアナウンスして標準プログラム・大学生対象のプログラムの参加を促した。

（早稲田大学）

早稲田大学保健センターにおいて、講演会の開催、関係職員との紹介手順打ち合わせ、心理検査員の雇用等を行い、発達障害症例の収集と紹介に努めた。晴和病院への紹介実績は 1 例であった。また、紹介症例について、晴和病院スタッフおよび保健センター精神科医と個別に症例検討を行った。

（神経研究所）

発達障害を有するために修学や就労で困難を抱える大学生を対象に、公益財団法人神経研究所附属晴和病院にて平成 27 年度からショートケア・プログラムを試験的に開始している。平成 28 年度は、第 2 期学生プログラムを平成 28 年 7 月～平成 29 年 3 月に実施した。頻度は月 1 回、1 回 3 時間、全 9 回であった。プログラムの内容は、コミュニケーションスキル、心理教育、ディスカッションなどで構成され、大学生という集団の特性から、就職活動に向けてのプログラムなどの付加的プログラムも展開した。平成 28 年度は、全 14 名が登録し、参加者の平均年齢は 20.9 歳、9 割が男性であった。第 2 期からは、社会適応尺度 (SASS) の質問項目を取り入れた、学校生活適応尺度を毎プログラム時に実施した。全 16 項目で構成され、学校生活への興味・好奇心、対人関係、自己認識などを自己記入式で評価する。合計得点が高いほど、学生生活への適応度が高いと評価し、第 2 期初回の参加者 (6 名) の平均点 20.7 点が、最終回である 9 回目終了時点で、参加者 (8 名) の平均点は 25.0 点となり、4.3 点上昇した。プログラムの内容が、参加者の学生生活にとって部分的に効果的であった可能性がある。第 2 期プログラム終了時の参加者の感想では、人間関係の知識が頭に入った、生活リズムがついた、行くところがあるという充実感があつた、という意見が聞かれた。また、話す力があつた、友達との交流が深まった、人との衝突が減った、ゼミでの連絡時に生かしている、などの意見があつた。今後も、プログラムの内容を充実させていくとともに、プログラムのどういった点が学生生活への適応に生かされたのか、という効果検証についても実施していく。

We have started the rehabilitation program for adults with ASD since 2008, first in Karasuyama Hospital , and then in Seiwa Hospital. Since then altogether more than 6,000 people have visited two hospitals, and we have found that the rehabilitation program, composed of 20 sessions for 3 hour daily, once a week, is effective to facilitate the communication skills for those with ASD. The Program has now been published as two books, training manual and workbook, from Seiwa Publishers, Tokyo, on April 2017.

So far more than 600 professionals from all over Japan have visited our Rehabilitation Program in two Hospitals, and they are going to apply the same Program in each Hospital. As of today, altogether 23 hospitals and support-centers have utilized the same Program and 1,654 subjects with adult ASD have participated. The second annual meeting for standardized rehabilitation program for adult ASD was held in Seiwa Hospital on July 8<sup>th</sup> and 9<sup>th</sup>, 2016. For those who are interested in this Rehabilitation Program, the fourth Annual Meeting of Japan Association of Support-Group for Adult ASD was held in Showa University, Shinagawa, Tokyo on November 19<sup>th</sup>, 2016, and altogether 150 people participated. As the next year 2017 is the final year of 3-year term Grant from Japan Agency for Medical Research and development (AMED), we plan to hold International Autism Conference in Hitotsubashi Hall on October 14<sup>th</sup> and 15<sup>th</sup>, 2017.

### III. 成果の外部への発表

#### (1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌7件、国際誌0件）

1. 加藤進昌、発達障害とは何か ー間違いだらけの発達障害診断ー、千葉県医師会医学会誌、2016、12、37-46.
2. 横井英樹、月間紗也、内田侑里香、加藤進昌、精神科デイケアにおける発達障害者への心理社会的支援、日本精神科病院協会雑誌、2016、35、45-50.
3. 加藤進昌、あなたのそばの発達障害、學士会会報、2016、918、100-104.
4. 加藤進昌、テレビの発達障害特集に出演した田中義彦さん ー発達障害専門の外来とデイケアに集う人たちー、臨床精神医学、2016、45、1365-1373.
5. 加藤進昌、第20回年次大会教育講演Ⅱ「成人発達障害のデイケア ーショートケアプログラムの標準化に向けてー」、デイケア実践研究、2016、20、50-54.
6. 加藤進昌 (監修)、成人期の発達障害への取り組み、日本医事新報、2016、4852、25-42.
7. 渡辺慶一郎、苗村育郎、布施泰子、金子稔、大島紀人、島田隆史、川瀬英理、佐々木司、杉田義郎、佐藤武、守山敏樹、大島亜希子、大学生を対象にした発達障害に関する質問紙調査、CAMPUS HEALTH、2016、53、355-356.

#### (2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

1. ランチョンセミナー：発達障害と就労支援 ～うつ病リワークデイケアと発達障害デイケア～、口頭、加藤進昌、第9回うつ病リワーク研究会年次研究会、京都リサーチパーク（京都府）、2016/4/24、国内.
2. シンポジウム：大学生の発達障害の現状と対策、口頭、五十嵐良雄、加藤進昌、第112回日本精神神経学会学術総会、幕張メッセ(千葉県)、2016/6/2、国内.
3. シンポジウム：大学生の発達障害 ー東京大学の取り組みー、口頭、渡辺慶一郎、第112回日本精神神経学会学術総会、幕張メッセ(千葉県)、2016/6/2、国内.
4. 発達障害がある大学生の修学・就労に関するアンケート調査、渡辺慶一郎、大島亜希子、川瀬英理、綱島三恵、島田隆史、ポスター、第54回全国大学保健管理研究集会、大阪国際会議場（大阪府）、2016/10/5、国内.
5. 発達障害検査入院における患者背景と診断結果 ～昭和大学附属烏山病院の経験から、小島睦、太田晴久、大森裕、森井智美、新井豪佑、森田哲平、佐藤綾夏、横山佐知子、武藤奈奈、ロンバートはるみ、飯田優加、金井智恵子、今村薫奈、内田侑里香、池ヶ谷訓章、加藤進昌、岩波明、ポスター、第4回成人発達障害支援研究会、昭和大学上條講堂（東京都）、2016/11/19、国内.
6. 発達障害検査入院をした患者の臨床的特徴と心理検査結果について ～昭和大学附属烏山病院の経験から、大森裕、太田晴久、小島睦、森井智美、新井豪佑、森田哲平、佐藤綾夏、横山佐知子、武藤奈奈、ロンバートはるみ、飯田優加、金井智恵子、今村薫奈、内田侑里香、池ヶ谷訓章、加藤進昌、岩波明、ポスター、第4回成人発達障害支援研究会、昭和大学上條講堂（東京都）、2016/11/19、国内.

7. 国立大学に在籍する大学生の WAIS-III、渡辺慶一郎、大島亜希子、苗村育郎、水田一郎、布施泰子、丸田伯子、金子稔、第 38 回全国大学メンタルヘルス学会、口頭、一橋大学一橋講堂（東京都）、2016/12/9、国内。
8. シンポジウム：発達障害－支援の現状と今後の展望－、発達障害学生への支援の実践を通して得られたこと、口頭、渡辺慶一郎、第 38 回全国大学メンタルヘルス学会、一橋大学一橋講堂（東京都）、2016/12/9、国内。

### (3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み

1. テレビ：大人の発達障害、加藤進昌、日本テレビ（NEWS ZERO）、2016/4/28、国内。
2. ラジオ：大人の発達障害－社会生活で顕在化する障害－、加藤進昌、NHK ラジオ第一（マイあさラジオ 健康ライフ）2016/5/9、国内。
3. ラジオ：大人の発達障害－大人のアスペルガー症候群－、加藤進昌、NHK ラジオ第一（マイあさラジオ 健康ライフ）2016/5/10、国内。
4. ラジオ：大人の発達障害－大人の ADHD－、加藤進昌、NHK ラジオ第一（マイあさラジオ 健康ライフ）2016/5/11、国内。
5. ラジオ：大人の発達障害－デイケアによる治療－、加藤進昌、NHK ラジオ第一（マイあさラジオ 健康ライフ）2016/5/12、国内。
6. 講演：大学における発達障害者の受入れについて、加藤進昌、日本私立大学連盟 東部地区金曜会、東京、2016/6/17、国内。
7. ラジオ：成人の ADHD 治療、加藤進昌、ラジオ NIKKEI 第一（ドクターサロン）2016/7/20、国内。
8. 講演：間違いだらけの大人の発達障害診断、加藤進昌、横浜市北部精神医療懇話会、神奈川、2016/10/27、国内。
9. 講演：成人発達障害者支援 医療・福祉・保健・教育が連携した『生きづらさ』によりそう支援とは、加藤進昌、成人発達障害者支援シンポジウム、滋賀、2016/10/28、国内。
10. 講演：発達障害学生について、加藤進昌、平成 28 年度学生生活指導のための教育職員ガイダンス、東京、2016/10/31、国内。
11. 講演：発達障害学生への支援のポイント、平成 28 年度学生生活指導のための教育職員ガイダンス、神奈川、2016/11/24、国内。
12. 講演：大人の発達障害を理解する－発達障害と診断されている人・診断されていない人の対応を考える－、加藤進昌、東京都看護協会研修会、東京、2016/11/25、国内。
13. 講演：発達障害って何？～発達障害への理解～、加藤進昌、葛飾区健康部青戸保健センター講演、東京、2016/12/5、国内。
14. 講演：発達障害の具体的支援について、横井英樹、葛飾区健康部青戸保健センター講演、東京、2016/12/19、国内。
15. 講演：発達障害学生について、加藤進昌、平成 28 年度学生生活指導のための教育職員ガイダンス（富士吉田キャンパス）、東京、2017/1/6、国内。
16. 新聞：大人の発達障害 ケアへ悩み共有、加藤進昌、日本経済新聞、2017/1/19、国内。

17. 講演：ASD と ADHD の診断と治療、加藤進昌、明治安田こころの健康財団集中講座 2、東京、2017/2/12、国内.
18. 講演：発達障害の生物学的背景、加藤進昌、平成 28 年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業～医療従事者向け講習会～、東京、2017/2/26、国内.
19. 講演：発達障害の脳科学 -ASD と ADD はどう違うのか、共通点はあるのか-、加藤進昌、神奈川県立精神医療センター主催講演会、神奈川、2017/3/17、国内.
20. 講演：ASD と ADHD の脳科学 ～臨床の知見を脳科学で実証したい！～、加藤進昌、高知大学医学部神経精神科学教室DCセミナー、高知、2017/3/24、国内.

(4) 特許出願

該当なし